

事務事業名		国民年金基礎年金等関係事務事業		<input type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業																									
政策体系	政策名	07 新たな時代を切り拓く行政経営の確立		事業期間																										
	施策名	23 質の高い行財政運営の推進		区分																										
	基本事業名	01 効率的・効果的な行政運営の推進		単年度繰返																										
根拠法令		国民年金法		※期間欄に開始年度を記入																										
所属	部課名	市民生活部国保医療課		【開始年度】																										
	課長名	安居 清隆		昭和36 年度～																										
	係名	国保年金係	電話 0192-27-3111	事務事業区分																										
	担当者	新沼 孝太	内線 143	E 一般																										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)																										
国民年金市町村事務処理基準に基づき、国民年金の法定受託事務及び協力・連携事務を行う。 法定受託事務の主な内容は、被保険者資格の得喪、保険料の免除・学生納付特例申請の受付などであり、協力・連携事務の主な内容は、保険料の納付督促、来訪・電話による相談、年金受給権者(厚生年金加入期間有り)の死亡に係る未支給年金請求の受付等である。				<table border="1"> <tr> <td rowspan="7">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費</td> <td>財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>		総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金																											
		都道府県支出金																												
		地方債																												
		その他																												
		一般財源																												
	事業費計(A)	0																												
	人件費	正規職員従事人数																												
延べ業務時間																														
人件費計(B)		0																												
トータルコスト(A)+(B)		0																												

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)								
前年度実績(前年度に行った主な活動) 被保険者及び年金受給者に係る各種の届出等を受理し、日本年金機構に送付した。	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 被保険者に係る各種届出受理件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>イ 年金受給者に係る各種届出受理件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 被保険者に係る各種届出受理件数	件	イ 年金受給者に係る各種届出受理件数	件	ウ	
名称	単位								
ア 被保険者に係る各種届出受理件数	件								
イ 年金受給者に係る各種届出受理件数	件								
ウ									
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同じ	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)								
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ・国民年金の被保険者 ・国民年金受給者	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 国民年金被保険者数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>キ 国民年金受給権者数(年度末)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	カ 国民年金被保険者数	人	キ 国民年金受給権者数(年度末)	人	ク	
名称	単位								
カ 国民年金被保険者数	人								
キ 国民年金受給権者数(年度末)	人								
ク									
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 国民年金の手続きが正しく迅速に行われる。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)								
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) ・制度を正しく理解してもらう。 ・適切に国の業務を行う。	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 正しく手続きができた被保険者に係る各種届出受理の割合</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>シ 正しく手続きができた年金受給者に係る各種届出受理の割合</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	サ 正しく手続きができた被保険者に係る各種届出受理の割合	%	シ 正しく手続きができた年金受給者に係る各種届出受理の割合	%	ス	
名称	単位								
サ 正しく手続きができた被保険者に係る各種届出受理の割合	%								
シ 正しく手続きができた年金受給者に係る各種届出受理の割合	%								
ス									

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	単位	年度	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)	
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	880	213	204	204	204
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0	0	0	0
	事業費計(A)		千円	0	880	213	204	204	204
	人件費	正規職員従事人数	人	0	6	6	6	6	6
		延べ業務時間	時間	0	3,420	3,420	3,420	3,420	3,420
		人件費計(B)	千円	0	13,680	13,680	13,680	13,680	13,680
		トータルコスト(A)+(B)		千円	0	14,560	13,893	13,884	13,884
⑤活動指標									
	ア	件	0	1,249	1,474	1,474	1,474	1,474	
	イ	件	0	516	501	501	501	501	
	ウ								
⑥対象指標									
	カ	人	0	4,375	4,121	3,740	3,458	3,197	
	キ	人	0	13,888	13,819	13,750	13,682	13,614	
	ク								
⑦成果指標									
	サ	%	0	100	100	100	100	100	
	シ	%	0	100	100	100	100	100	
	ス								

事務事業ID	0123	事務事業名	国民年金基礎年金等関係事務事業
--------	------	-------	-----------------

**(3) 事務事業の環境変化・住民意見等**

- ① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？  
昭和36年の国民年金制度の発足により、国の機関委任事務として開始された。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？  
平成14年度から地方分権一括法の施行に伴い法定受託事務となり、保険料の収納事務が国に移行した。国民年金の被保険者数は減少傾向にあるが、年金受給者数は横ばい傾向にあるほか、近年は障害年金に関する相談や申請が増加傾向にある。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？  
法定受託事務(国民年金第1号被保険者対象)として受付業務に限られており、それ以外は直接年金事務所に向かうか、または月1回開催の出張年金相談を利用することとなるが、管轄の一関年金事務所は遠方であり、また、出張相談会は混雑しているため、市でも受付してほしいという要望がある。そのため、法定受託事務の対象でない書類についても可能な範囲で書き方の相談などに対応している。

**2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつかか？意図することが結果に結びついているか？ 国の法定受託事務の1つとして、市の政策体系と結びつく。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 国の法定受託事務として、市町村に義務付けられている。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 国民年金法等により、対象者及び業務の内容が確定している。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 現行の職員体制で可能な限りの迅速適正な事務処理を行っている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 国の法定受託事務なので廃止・休止は不可能であるが、仮に廃止・休止したとすれば、国民年金に関する全ての手続きを年金事務所で行わなければならない、被保険者等は不便を強いられることとなる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 現在の事業費は、旅費、需用費、役務費など最低限の事務費であり、これ以上削減することが出来ない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど) 国保年金係の職員6名で窓口対応を行っている。法定受託事務の対象でない書類についても相談に応じていることなどにより来庁者が多く、窓口が混雑することがあり、これ以上の削減は業務に支障をきたす。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <span style="float:right">▽ 理由・内容</span> 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 国の法定受託事務であり、受益者負担は無し。

**3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)**

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																					
1 現状維持	<table border="1" style="text-align:center; width:100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)</p>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×	現状どおり、今後も正確かつ迅速な事務を行っていく。
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

**4 課長等意見**

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持	国の法定受託事務であり、今後も継続して事業を実施する。